

自粛で流れてしまったあの時のあのイベント

あつと言う間に1年が過ぎ、新年を迎えることになってしまった。1月号なのでこれからの意気込みでも話すべきなのだろうが、やはり昨年起きたことを書きとどめておくことにする。東日本大震災は600km以上離れ、自然災害が全国平均の半分、ある地方と比べると10分の1以下と言われ、凍死する者が東京23区内のその数よりも明らかに少ない、北海道の農業にも影響することになった。本来は津波や地震の被害と比較すべきこともないが、TTP参加後の明るい北海道農業の観点からご報告できることがある。

4年に1度、北海道で開催される国際農業機械展。国内の農業関連企業のみならず、主要な海外トラクターや作業機メーカーが集まる大イベントである。戦後わずか2年しか経っていない1947年に帯広市で、開市のちよつと程度の良いものと勘違いさせるネーミングである「自由市場交換即売会」が開催された。その後、幾度か名称を変え2002年の第30回からは「国際農業機械展in帯広」となり、10年には第32回を迎えることになっていたが、同年春に宮崎地方で発生した口蹄疫の蔓延を

防ぐため、無用な国内移動、そして海外からの農業関係者に2次の被害を与えないために翌年つまり昨年に延期となった。ただ個人的にはどうなのだろうと疑問もあった。

海外でも口蹄疫の発生をよく聞くと、その発生国から国際農業機械展が開催された年に参加者が1名も入国していないのか？ 仮にそのような状況で海外からの参加者が入国していないとしても、日本人が出入国をしていることを忘れているのだろうか。曖昧さが残る理由付けた。そして迎えた昨年は東日本大震災の影響？で延期となり、自粛の喪が明けける次回の開催は14年である。この時点で組織のやる気のなさを確信した。

本当に自粛なのか。昭和天皇の崩御時も日本中が自粛ムードだったことを記憶しているが、当時も今回と同じような何か違和感があった。ちなみにあの日は、私は成田に向かい、金髪・ブルーアイとの交流事業に燃えていた。

米国では、各地で農業祭と同時に

盛り上げるのも、盛り上がるのも大変

Vol.44



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

曖昧

農業機械展が行なわれる。そのひとつである、毎年2月10日頃、カリフォルニア・ツーレアで開かれる農機展の機械は素晴らしい……と言いたいところだが、正直言って物足りない。なぜなら展示されるものの半分は野菜、林業関係なので、私の経営とは結び付きにくいからである。が、面白いのだ。

開催初日の朝9時にこのツーレア農機具展では米国

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

国歌斉唱から始まる。高さ150フ
イト(50m)くらいあるポールに
星条旗が下から上へと掲げられ、参
加者・入場者は典型的米国田舎者の
象徴であるジョン・ディアやケース
などのロゴが書かれたキャップを胸
に当て、ある者は口を閉じ、ある者
は**口パク**、そしてある者はカラオ
ケマシーンで50点がせいぜいの1オ
クター外れた美声で歌うことにな
る。その中には大人と共に生まれ
ばかりのストローラーに乗った赤ち
ゃんから、小学生の子供が親と同じ
直立不動の姿勢で星条旗を見る姿は
いかなるものよりも美しさを感じ
る。

これで終われば単なる米国万歳物
語! で終わってしまうのだろう。
ここから! ここからがすごい話な
のです。国歌斉唱が終わり、全身が
聖なるものから解き放たれ、各自が
キャップをかぶり始めたその時、北
の空から「ゴオーツ」と天をも裂く
雄叫びが聞こえてきたのです。

その方向を見ると米国海軍のFA
18スーパー・ホーネット3機がスク
ランブルなどの緊急時を除いて禁止
されているアフターバーナー全開で
この会場に向かってくるではありません
せんか。会場の全員が「オーツ」と
叫びながらその動きを見てみると、
この3機が星条旗の赤・白・青のス

モークを焚き始め、その数秒後、会
場の真上で急上昇しながら3色のチ
ューリップの様に左右に開き、その
まま天高く消えて行ったのです。こ
れを見たヒール宮井ほとんど**オツ
タチ**状態でした。こ、これだ!
これが正しい軍士官の集大成です。

そうです、この海軍が米国農業を
応援している姿を日本でも、できる
のではないかと考えたのです。私の
フルボッコ(フルボッキではありません
せん)状態は日本に帰ってからも収
まらず、国際農業機械展in帯広でも
自衛隊機が同じようなことを行なえ
ば、参加者の多くは「自衛隊も農業
を応援してくれている」と考えるし、
農業は国防と同じくらい大切なもの
であるとの認識が広まるだろう、農
業だけではなく正しく国益につなが
ると感じたのです。

自衛隊に掛け合っただが、 その返事は……

そうなる在即実行、出展関係企業
に連絡してみた。当初、口頭で北海
道の農機具関連会社に説明をした
が、「ふーん、面白いですね」の
心もとなない生半可な返事ばかり。参
加企業に直接メールをしたところ、
すべての(例外なく)会社がアッチ
向いてホイ。つまりあんな大きな会
社や、すごい有名な会社であつても

返事はないか、あつても「私たちは
実行委員であつて、事務局に聞いて
ください」。そこで事務局に提案す
ると「ほお、面白いですね」と話を
聞いてもらうことになった。

開催される予定だった会場は北部
方面隊・第5飛行隊があり、戦闘ヘ
リAH-1の部隊としても有名であ
る。また、この戦闘ヘリ部隊がある
十勝飛行場に着陸するランウェイ31
の2マイルの位置に会場があり、不
必要にヘリが飛び回ることがなく、
通常の着陸、もしくは通常の離陸後、
1分以内にはこの会场上空でAH-1
1が飛び回り、最高の盛り上がり
を見せることができると思つた。そし
て、できれば簡単なアクロバテック
(曲技飛行)なこともお願いしよう
かと考えた。普通の方はアクロバテ
ックと言うと宙返り、横転、反転、
きりもみを想像するのだろう。しか
し航空法やその他関係法で重力加速
度、X、Y軸は何度あるかなどの細
かい規定があつて、単にクルクル回
るのは曲芸飛行であつて、曲技飛行
とは別のものであると言うことは自
家用パイロットでも知っている。そ
こで曲技の定義では急旋回時に高度
を維持して旋回角が60度を超えるこ
ととなつているので、提案ではこれ
を超えない55度の旋回を数回やるこ
とを提案してみた。これであれば建

前、自衛隊法や民間の航空法に触れ
ることもないし、現実には60度を超え
る旋回をやつても、下から見る限り
旋回角度が何度の旋回をやつてい
かはわからないので、おとがめはな
いだらうと考えた。などなどとは
私からではなく、興味を示してい
ただいた開催事務局経由で**戦闘ヘリ
部隊**をお願いをした。

やはり戦うことのない自衛隊には
無理なのか、提案を断つてきた。建
前は「クレームが多く、住宅地上空
なのでできません」となつた。確か
にそうだが、数回でなくても1回く
らい旋回してもクレームは来ないだ
らうと事務局を通じて再提案をした
が、返事は来なかつたらしい。

ある方のアドバイスでは、この部
隊を応援している地元組織を使うの
が一番とか。あと考えられるのは防
衛、農水大臣を歴任された石破茂衆
議院議員、もしくは今回仮釈放され
た鈴木宗男さんに話してみるか。

ところで、なんで私がこの国際農
業機械展を盛り上げなければならな
いのか疑問を感じてきた。やる気
のないメーカーや農業関連会社を支
えているのは、やはりやる気のない生
産者たちなのだろうか。こんな農業
をやつていける我々は幸せ者だと思
うのは間違ひだったと、TPP参加
後に気付くことになるのだろう。